

はじめに

この度は前橋地方検察庁のホームページを御覧いただきありがとうございます。
前橋地検は、大規模でもなく小規模でもなく、ちょうどいい規模の庁で、全職員と顔を合わせることができ、非常にアットホームな雰囲気です。

また、前橋地検がある群馬県は、災害が少なく、都心からのアクセスもよく（高崎～東京間は新幹線を使えば1時間かかりません！）、近隣県からも通勤可能なので、ライフステージが変化しても働き続けやすい立地環境です。

そんな前橋地検の魅力を少しでもお届けできたらと思い、当庁職員6名にインタビューしてみました！

少しでも興味を持っていただけたら幸いです。

人事担当者

座談会参加職員紹介

①勤続年数 ②現在の業務 ③採用区分

Aさん



- ①採用20年目
- ②中核事務官
(裁判員裁判担当)
- ③大卒

Bさん



- ①採用16年目
- ②捜査公判部門
(検事立会)
- ③大卒

Cさん



- ①採用12年目
- ②検務部門
- ③大卒

Dさん



- ①採用7年目
- ②事務局総務課
- ③高卒

Eさん



- ①採用5年目
- ②事務局会計課
- ③高卒

Fさん



- ①採用4年目
- ②捜査公判部門
(副検事立会)
- ③高卒

質問 1

検察庁に興味を持ったきっかけは？

Aさん

高校生のとき、検察庁について知る機会があり、特にパソコンを使ってコツコツ事務作業をこなす検察事務官の仕事が自分に適していると感じたことです。

その後、法学部に進学し、司法試験の問題を解いたりしたこともあり、民事法より刑事法の方がおもしろいと感じたこともきっかけです。

Cさん

検察事務官という仕事を最初に知ったのは、テレビドラマでした。大学のゼミで検察庁を見学する機会があり、正義を実現する検察の仕事に興味を持つようになりました。

Bさん

検察官等を題材にしたテレビドラマの影響が強いかと。

加えて、大学で学んだこと（知識）を実際に仕事で生かせるというのも志望した理由の1つです。

Dさん

興味を持ったきっかけは、中学生の時に親が見ていたテレビドラマを何気なく一緒に見ていたことで、ドラマを通して検察事務官という職業があることを知りました。ドラマが面白くてシーズン1も遡って見たり、映画も見に行ったのを覚えています。

そのドラマでは検察官と立会事務官の仕事にスポットを当てていたというのがありますが、検察官と一緒に現場に赴いたり、取調べに立ち会うなどしていた立会事務官の仕事が面白そうだなと思いました。

Eさん

漠然と安定した職業に就きたいという理由で公務員を志望しており、当初、公務員といえば市役所や県庁職員といったイメージが強く、機械的に淡々と業務をこなしていくものだと思っていました。ですが、色々調べていくうちに検察庁のような専門的な分野に特化した仕事もあるのだと知り、検察庁という名前のかっこよさ、自分とは無縁だと思っていた刑事手続きに関わることができるという期待から検察庁を志望するようになりました。

Fさん

私は元々警察官志望で、その中でも刑事について興味を持っていました。

そこで、刑事について調べていく中で、検察庁を知り、捜査・公判の両方に携われる検察庁に魅力を感じ、検察事務官を志望しました。



人事担当者

テレビドラマがきっかけで興味を持った職員が多いんですね！

質問 2

前橋地検ってどんな雰囲気？

Aさん

前橋地検は、職員数が190人弱くらいの規模ですから、一度も話したことがない職員はごくわずかです。コミュニケーションは取りやすく、かといって、人間関係が濃密になりすぎず、お互い適度な距離感をもって仕事ができていると感じます。

Bさん

歳が近い人同士はもちろん、多少？歳が離れている人とも話しやすい雰囲気だと思います。話す内容によっては、真剣に話し合ってくれたり、わきあいあいとしゃべったりといった感じで、常に張り詰めた重苦しい雰囲気ではないかなと思います。

Cさん

職員同士で助け合う暖かい雰囲気があると感じます。個人が責任を持って業務を行うことはもちろん大事ですが、一人で全てを抱え込む必要はなく、周囲と相談しながら仕事を進められます。また、大規模庁よりも一人が担当する業務が幅広いので、若手職員であっても様々な経験を積むことができます。

僕たちも
いるよー！



前橋地方検察庁
広報マスコットキャラクター
上毛三兄弟

Dさん

年代を問わず、全体的に話しやすい雰囲気だと思います。分からないこと等があっても上司や先輩に聞いたら丁寧に教えていただくことができます。

業務の話だけでなくちょっとした雑談もあり、常に無言でパソコンに向かうのみ！というわけではなく、集中するときは集中して取り組み、たまには一息つくというようにメリハリを持って業務に取り組むことができていると思います。

入庁前は、法律関係の仕事ということでお堅いイメージがあり緊張していたのですが、実際に働いていると明るい雰囲気職場だと感じています。

Eさん

先輩や上司の方々はみなさん優しく、分からないことがあれば気軽に聞くことができる環境だと思います。

休暇も積極的にとるように言ってもらえるので、若手職員も休みを取りやすく、仕事とプライベートの両立がしやすい職場だと思います。

Fさん

とても活気ある雰囲気職場です。

今年で採用されて4年目ですが、意見や考えを発言しやすく、分からないことはすぐに聞ける環境ですので、とてもコミュニケーションが取りやすい職場だと思います。

入庁前はとても厳しく静かな環境だと思っていましたが、たまには雑談もありつつ、メリハリをつけて業務に取り組むので、とても活気ある雰囲気職場だと思います。



人事担当者

皆さんが言うとおり、仕事に真剣に挑む一方、和気あいあいとした雰囲気もあり、メリハリのついた職場だと思います。

また、検事や検察事務官等役割に違いはあれど、年代に関係なく、つながりがあり、相談しやすい環境も整っています。

質問3

仕事で大変だったこと&やりがいを感じたことは？

中核事務官… 裁判員裁判に関する事務を担当する検察事務官。
検察官の指揮に基づき報告書などの公判に提出する証拠や公判で使用する資料の作成を行うなど、検察官の公判活動の補助をする。

Aさん

★大変だったこと★

証拠品担当のとき、警察から一度に大量の証拠品を受け入れるのが大変でした。書類の記載に間違いがないかなどのチェックも大変ですが、証拠品そのものを1点1点チェックして、壊れていないか、書類に書かれている状態と変化がないかなどチェックするのはさらに大変でした。

★やりがい★

立会事務官や中核事務官のとき、自分で作成した証拠書類について「分かりやすい」とか「よく考えてるね」とほめてもらったときやりがいを感じました。

立会事務官や中核事務官の仕事は、直接的に、検察官の業務をサポートしていると実感できるのでやりがいに直結します。

Bさん

★大変だったこと★

出資法違反の事件でしたが、検察官と2人だけで、数百点ある証拠物を何時間もかけて確認したり、気の遠くなるような利息などの計算（ちなみに客がそれなりの数いました）をしたりしたことは大変な思い出の1つです。

★やりがい★

自身が経験したことない事案を他の職員の知識等を借りたり、様々な資料を調べたりした上で自分で対処方法などを考え、その結果として想定した結果（起訴されて判決で有罪が言い渡されるなど）につながったときにやりがいを感じます。

Cさん

★大変だったこと★

立会事務官のとき、防犯カメラ映像のデータを確認して報告書を作成したことが大変でした。
警察が報告書を作成しているのが一部のみだったので、いくつもある防犯カメラの映像を自分で見て確認しました。

★やりがい★

捜査の応援に入った事件でしたが、外国語のメッセージの翻訳をひたすら書き起こす作業があり、何日もかかったことが印象に残っています。
こうした地道な作業であったり、自分が見つけた証拠や資料が検察官の役に立ったときにやりがいを感じます。

Dさん

共犯者が沢山いる事件の公判手続の際、共犯者全員の証人尋問をすることになったのですが、共犯者が全国各地で受刑中であったため、打合せをするための各地への出張が度々ありました。

出張に行くために取調べの日程を調整したり他の事務手続等を前倒して進めるなど、バタバタしてしまいましたが、無事に手続が終了し、被疑事実を立証することができて判決で有罪が言い渡されたときは、安堵するとともに達成感を感じました。

また、検察官に依頼されたときなど、自分で報告書を起案することがありました。

内容によっては作成に時間を要するものがありましたが、検察官が公判手続でその報告書を証拠請求し、採用された際など、検察官の役に立てたと実感したときなどにも達成感を感じました。

Eさん

これまで大変だと感じたことは電話対応です。

検察庁が相手にしているのは被疑者もしくはその被害者などがほとんどであり、特に被害者の方への電話対応ではどこまで内容を伝えていいのか、希望に合わない処分となった場合にはどのように説明したら納得してもらえるのかなど相手の心情に配慮した対応に頭を悩ませることがありました。

Fさん

1年ごとに部署が変わり、また1から業務を覚えなくてはならないことがとても大変でした。大変な分、色々な部署で幅広い業務に取り組むことができるので、とても魅力だと思います。やりがいを感じる時は、捜査に携わった事件が起訴され、公判で判決になったときです。真相解明し、1つ事件が終わった時に、社会正義の実現に貢献できたと感じ、やりがいを感じます。



人事担当者

**検察庁の職員ならではの経験ですね。
困難を超えた先にやりがいを感じる場面があるからこそ、仕事を頑張ろうと思える
んですね。
このように、検察庁の職員は、社会正義を実現し、法秩序を守っているという誇り
を持って職務に取り組んでいます。**

質問4

研修について教えて？

DF…デジタル・フォレンジックの略。

押収したスマホ等に保存されているデジタルデータを適正な手続きに基づき抽出し、抽出したデータを解析して犯罪立証のための証拠を見つける手法・技術のこと

Aさん

実務に即した研修内容となっているので、しっかり取り組んだ分だけ必ず実力につながります。座学がメインなので辛いときもありますが、DF分野の実技や、専門家の講演会などのコマもあるので、安心してください。

各地の同期と数年ぶりに再会して情報交換できるのも楽しみの1つです。

研修施設は少しばかり古いですが、寝て起きて勉強して・・・という場所だと割り切れば、必要最低限のものはそろっています。

最近は、研修期間の一部をリモートで参加できる研修もあるので、家庭等の事情で研修参加を躊躇していた人にも道が開けたと感じます。

Bさん

いろいろな研修に参加しました。

検察事務官であれば全員が参加する研修はもちろん、希望して参加した研修もありました。

希望者のみの参加（※希望すれば必ず参加できるわけではない）ですが、一部の業務に特化した研修もありましたし、検察事務官以外（他省庁の方）が参加する研修もありました。

Cさん

充実していると思います。必須の研修のほか、自分が興味を持った分野（独自捜査やデジタル機器の解析など）についての研修も、希望して参加することができます。

必須の研修は他庁の同期と交流する機会にもなり、相談し合える仲間を作ることができます。

独自捜査…検察官自ら被疑者を検挙・摘発して行う捜査のこと。
検察官自ら搜索差押えや被疑者の逮捕を行うため、検察事務官も同行する。

Dさん

私は、昨年、集合形式の研修に参加しましたが、率直に、楽しかったです。

講義では法律や検察庁の業務のこと等について勉強しました。

座学だけでなく、自分自身が検察官として模擬取調べを行ったり、普段は検察官が起案する文書を自分自身で起案してみるなど、大変勉強になりました。

また、普段は他県の検察庁の同期や同世代の方と関わる機会があまりないので、業務のことなどを共有したり、講義の際と一緒に課題に取り組むなど、とても有意義な研修にすることができました。

研修が終わってからも、業務のことについて相談したり、連絡を取り合って定期的集まるなどしており、研修を通して良き同僚兼友人と出会うことができ良かったなと思っています。

Eさん

私は、現時点で初等科研修（※1）への参加経験がありますが、ほかの検察庁の職員と交流を深める絶好の機会だと思いました。

先輩方を見ていると、研修で仲良くなった同期との交流は非常に強く、仕事で困ったときに電話で相談をしたり、出張等で県外に行ったときに飲みに行っていたりなど仕事をする上で自分の助けになることが多く、とても有意義なものだと思いました。

※1・・・新採用者が4月から1か月間、研修寮に入寮して行う研修（高等検察庁単位で行われている。）



人事担当者

多種多様な研修がありますが、特に、寮に入寮して行う研修で出会った人とは、今でもつながっており、一生の仲間となっています。

質問5

休暇取得できてる？



休暇は大事!!

Aさん

できてます。

私の休暇の取り方は、業務に余裕のあるときに休暇を取るというより、今はまだ子育て中のため、子供の行事等に合わせこの日この時間に休暇を取りたいということがほとんどで、少し前までは子供の体調不良で急遽休暇をとることも多かったです。

自分の都合に合わせて休暇を取るとなると、完全に周囲の人に迷惑をかけないというのは難しいです。

しかし、実体験として、みなさんが事情を理解して休暇取得に協力してくれたので、仕事を続けてこられたと思っています。

私としても、なるべくかける迷惑の程度を減らすよう、先輩の教えに習い、他の事務官に代理を頼むときは引き継ぎをしっかりとすることや、日頃から、期限ギリギリではなくできる限り早めに仕事を進めておくことを心がけてきました。先輩から引き継がれた、相互に相手を思いやって支援し合うという職場環境が体現されていると感じています。

Bさん

休暇は取得できています。

私の場合、子供の都合に合わせて休暇を取得することが多いですが、事前に休暇の予定を決めて、他の職員の協力を得るなどして、業務の都合をつけて休んでいます。

Cさん

子供の体調や予定に合わせて休暇を取得できていますし、自分のリフレッシュの時間として休暇をいただくこともあります。

普段から情報共有をして、引継ぎをきちんとすれば、自分や家族の予定に合わせて休暇を取得することは可能です。

Dさん

とても取得しやすいと思います。

私は友人と予定を合わせて休暇を取得して旅行に行ったり、特に予定がなくても業務に余裕があるときなどに休暇を取得してリフレッシュの時間に充てるなどしています。

前もって休みたい日を伝えておき、それに合わせて仕事を進めるとともに日頃から上司や先輩に情報共有しておくように心がけています。

上司や先輩からも「休んでね。」と働きかけてくださり、取得しやすい環境だと感じています。

Eさん

有給休暇は月に1～2回程度の頻度で取得できています。

私は時間休をよく利用していますが、急な用事が入ってしまったときなどにとても助かっています。

Fさん

できています。

毎年20日間の有給休暇が設けられていますが、年末になると休暇が足りないかなと不安になるぐらいに休暇は取得できています。

比較的忙しいと言われている部署ですが、休暇を取る際には応援に入っただけとといった体制ができていますので、休暇が取得できないといったことはまずないです。

また、7月ないし9月には3日間の夏季休暇と呼ばれる特別休暇があり、皆さん有給休暇を混ぜて1週間ないし2週間休みを取ります。

時期についても、業務との折り合いがありますが、自由に選べるので、安い時期を見越して休暇を取って旅行に行っています。



人事担当者

令和8年4月からは、15分単位で休暇を取得できるようになり、制度としても職員の意識としても、休暇を取りやすい環境になっており、同じ係等の職員同士で調整しながら、休暇を取っています。プライベートも大切にしたいですね！

質問 6

入庁前の法律の知識って必要？



法律知識がないから
検察庁に入るの不安？

Bさん

個人的には必要ないかと。
分からないことは周りの職員に聞いて業務を進めていけるので、法律の知識がないと仕事ができないということはないと思います。
法律の知識などは、検察庁の業務を進めていく中で、他の職員に聞いたり、自分で調べたりする中で自ずと身につけていくと思います。

Cさん

研修制度も充実していますし、仕事をしていく中で身につく知識が一番多いので、心配しすぎなくとも大丈夫かと思います。

Dさん

あくまでも私の見解ですが、入庁前に詳しい法律の知識はなくても大丈夫だと思います。
というのも、私は大学に進学していないので、入庁するまで法律の勉強をする機会がなく、常識程度の知識しかありませんでした。
研修等を通して勉強し、また、普段の業務の際に調べながら取り組んでいる中で知識を習得することができていると感じています。
入庁してから研修等で勉強する機会があるので、心配はいらないと思います。

Eさん

まったく必要ないと思っています。
私自身、法律とはほぼ無縁の人生を歩んだまま検察庁に入庁しました。
公務員として仕事をする上で法律の知識は必要不可欠ですが、今はスマートフォンなどで簡単に調べることができますし、様々な研修も企画されているので仕事をしながら法律の知識を身につければ問題ないと思いました。

Fさん

必要ではないですけどあれば良いなって思います。
私自身、入庁前は専門学校に通っていて法律の知識は全くなかったもので、検察庁でやっていけるのかとても不安でした。
業務に取り組んでいく中で自分で調べて学んでいったり、1年に1回ある一斉考試という法律関係のテストに向けての講義などがあったりして、日々勉強して学んでいくので、知識が全くななくても問題ないと思います。
ただ、結局は業務をやっていく上で必要にはなってくるので、入庁前に法律の知識があれば良いかなとは思っています。



人事担当者

私自身も法律の知識は全くありませんでしたが、入庁してから研修や実務で勉強してきました。
また、当然ですが、法律のフロである検察官が身近にいます！
法律のフロに直接教えてもらえるなんて、なんと贅沢な環境でしょう！

質問7

各種制度を使ったことある？ 使った感想は？

今では男性職員
の育休取得率も
100パーセント！
(R7年度前橋地検実績)

ワークライフ
バランスで
ござる。

育児短時間勤務
という制度も
あるね。



Aさん

育児休業3回のほか、育児時間（特別休暇）、フレックスタイム制度などを利用しました。

初めて育児休業を取ったとき、右も左も分からない中、上司や人事の担当者から各種制度の情報を教えてもらえたり、育児休業取得期間の希望について子細に聴取してもらえたので、不安がなくなりました。

当時は、職場への早期復帰の希望があったので、育児時間の活用にも際しても、先例が少ない中、ときの担当者がいろいろ調べてくれて、心強かったことを覚えています。

その後、同じく検察事務官をしている夫が、前橋地検男性事務官の育児休業取得第1号ということで、正直、当時は理解を得るのが難しいと感じた場面もありました。が、現在は、まったくそんなことはありませんので、安心してください。

ここ15年くらいで、より子育てしやすい制度が増えてきました。

いくつかの制度を組み合わせれば、子育て中でも仕事を続けやすい環境は整っています。

尻込みして退職することを考える時代は終わりました。長く仕事を続けるために、また、後につながる人のためにも制度を活用していくことが大切だと思います。

Bさん

子供が生まれる際に、いわゆる育児休業制度等を利用し、約7か月程度、育児のため仕事を休みました。出生後から、つきっきりで育児に携われたことはとても貴重な経験でした。

育休からの復帰ほやほや

Cさん

最近まで育児休業を取得し、復帰したばかりです。1年半以上の育児休業をいただき、子どもの成長をずっと近くで見られていたのはかけがえのない経験になりました。

産前には、勤務時間を短縮する制度や、通院のための休暇制度なども利用しました。

復帰した今も勤務時間や休暇について配慮をいただいているおかげで、家庭との両立ができていると感じています。

Dさん

電車通勤の際にフレックス制度を利用したことがあります。

通常勤務をしていた際は、定時退庁しても丁度良い電車がなく、時間をもったいないなと感じていたのですが、フレックス制度を利用して勤務時間を調整することで定時退庁した際に丁度良い電車に乗ることができ、勤務終了後のもったいない時間を削減することができました。



人事担当者

育児休業を始め、育児短時間勤務や介護休暇、また、フレックス制度や早出遅出勤務等さまざまな制度を利用できます。

また、ここ最近では、部署にもよりますが、テレワークしやすい環境になってきています。

質問 8

異動について教えて？ 国家公務員だから県外異動もあるの？

Aさん

ありますが、基本的には希望した人の中から指名されるそうです。

希望がすべて通るというものではありませんが、定期的に、県外異動の希望の有無だけでなく、希望する時期などについても上司に把握してもらう機会があります。

なお、引っ越しを伴うような異動の場合は、事前に打診があるそうです。

県外異動経験者

Cさん

基本的には県内での勤務になりますが、希望に応じて東京の検察庁や法務省で経験を積むチャンスがあります。

その他、個人の事情に応じて県外への異動を希望することもできます。

私の場合は、家庭の事情で群馬県に引っ越すことになり、希望して県外の検察庁から前橋地検に異動してきました。

こうした異動は人員の都合に応じて決まりますが、可能な限り配慮してもらえenと思います。

県外異動経験者

Bさん

希望によりませんが、県外異動もあります。

私自身は、4年間ほど東京の検察庁で働かせてもらいました。

その際は、群馬県から通わず、都内の借家から通勤していました。

一時的にでも、違う環境で働くことは、新しい発見や出会いなどがあり、自身のスキルアップにもつながるのでおすすめです。

Dさん

自分が希望し、希望が通れば県外の異動もありますが、希望しない場合は基本的に県内異動です。

希望して県外へ異動となっても基本的に数年で戻ってきますし、その点も良いなと感じています。

県外で勤務している先輩方の話を聞くと、新鮮で、県外異動の希望を出して挑戦してみたい気持ちもあります。



人事担当者

基本的には県内勤務。

しかも、県内支部は全て通勤圏内
(群馬県端の居住者は除く。)

ただ、本人の希望があれば他庁で職務経験を積めるチャンスもあります！

質問9

ズバリ！ 検察事務官の魅力は？

Aさん

検察事務官の魅力は、日本の刑事司法を支える検察官の懸命な姿を間近に見られるところです。

検察官は、ある事件につき起訴するかどうか日々証拠と向き合って、法律に基づいて判断しています。

世の中の仕組みが複雑になるほど、犯罪も巧妙化してきており、起訴の判断するのも、私が検察事務官になって約20年、年々困難になっているなど感じています。

そのような検察官の業務を、事務官が二人三脚となって支え、困難な事件を起訴して適切な有罪判決を得られたときの達成感をぜひ味わってほしいと思います。

私は、検察事務官として、日々どのように検察官をサポートできるかと考えながら、昨今は、デジタル分野や国際分野など様々な分野の基礎的知識を得るためにアンテナを張ったりしています。

また、全国異動の検察官とは逆に地元根付く事務官ならではの地域の地理情報などに精通しておくことも、犯罪捜査においては重要だったりもします。

さらに、事務手続を進める上でこと細かい根拠規定や資料などについて、検察官の求めに応じ速やかに用意できるよう日頃から心がけています。

私たち事務官にできることは限りなくあると思っています。

新人のころは仕事を覚えるので精一杯でしたが、事務官一人一人の工夫次第で検察官の仕事をより円滑に進めることができますから、とてもやりがいがあります。

Bさん

個人的には、刑事手続の最前線に立てることだと思います。

テレビやネットニュース、SNSなどで報じられていることが全てではないことが分かりますし、起訴する起訴しない、有罪・無罪となるまで、ひいてはその先のことにまで関わる機会があることが私としては魅力だと思います。

Cさん

事件の捜査、裁判、刑の執行に至るまでの様々な事務に携われる点にあると思います。
役割の違う部署をいくつか経験していく中で、自分なりの得意分野ややりがいを見つけることができるはずです。
また、周囲のサポートや各種制度も充実していますので、自分に合った働き方ができることも魅力のひとつだと思います。

Dさん

ズバリ、働きやすい環境と法秩序の維持に貢献できる点！

まず、働きやすい環境についてですが、福利厚生が充実しており、職員のライフステージに応じた柔軟な働き方ができると感じています。

また、個人的には、県内の異動について、前橋・高崎・太田・桐生・沼田と場所が限られているのも良いと思っています。

どの庁舎も駅からあまり離れていないため、転居しなくても公共交通機関を利用して通うことができますし、異動が負担にならないのが良いなと思います。

そして、法秩序の維持に貢献できる点についてですが、私自身、入庁して間もないときは、世の中にはこんなに事件、事故が起こっているんだと実感し、現在でもニュースで見ているだけでは伝わらないことが大半だなと感じています。

検察庁の仕事は、刑事事件の真相解明と事件・事故の適正な処理を行うことを目的としており、部署によって立場は違いますが、それぞれが誠実に職務に取り組み、その結果、被疑者の更生や被害者の支援など社会秩序の維持につながっていると思っています。

群馬県のため治安
維持の一翼を担う
でござる。



Eさん

検察事務官の魅力は、ニュースやドラマなどでしか見ることのできなかつた刑事手続に関わることができることや検察官や弁護士、裁判官などといった日本の司法のプロたちと仕事ができることだと思います。

これまで、検察官による逮捕や司法解剖といった業務に立ち会ってきましたが、そういった緊迫した状況の中で仕事をするたびに自分はすごい職場に就職したのだなと思い知らされます。

また、法律の知識や刑事手続の内容などが分かってくると、警察密着系番組や検事等を題材としたドラマをより楽しめるのも魅力だと思います！

Fさん

検察官のパートナーとして捜査・公判に携わることが一番の魅力です。

検察官と一緒に事件の真相解明に深く関わり、社会正義の実現に貢献できます。

また、捜査・公判だけでなく、様々な部署で幅広い業務に取り組むことができ、自分にあった業務を見付けられるのも一つの魅力だと思います。



人事担当者

検察事務官は、法律のフロである検察官のパートナーとして社会正義実現のために貢献できます。

また、直接捜査公判に携わっていない検務部門や事務局部門でも縁の下の力持ちとして、検察庁を支えています。

このように、検察庁でしか経験できない仕事がたくさんあるのです。

最後に

いかがでしたか？前橋地検や検察事務官についての雰囲気を感じることができたでしょうか。

職員が話しているように、特に、前橋地検には、以下の魅力があります。

- 「義理人情」（県民性）に溢れた職員の温かさを実感できる！
- ちょうどいい規模の庁だからこそ、上司や幹部（事務局長、検事正など）との距離感が近く、新規採用者が早く職場に馴染んで能力を発揮できる環境が整っている！
- 県内支部は全て通勤圏内に立地（群馬県端居住者は除く。）！

そんな前橋地検と一緒に働きませんか？

